二〇一八年一一月二日

広報版余地なく埋まる文化の日　うつぎ
小鳥来る峠茶屋守る老夫婦　さつき
一茎の石蕗に明るき書院かな　小袖
旅愉しホームですする走り蕎麦　智恵子
意地悪な風いなしつつ落葉掃く　たか子

二〇一八年一一月一日

秋夕焼水上バスを染めにけり　やよい
里山の闇の深さや銀河濃し　隆松
菊薫る志士らゆかりの宿坊に　さつき

二〇一八年一〇月三一日

婚の列玉砂利踏みて菊日和　智恵子
城壁を攻めのぼるごと蔦紅葉　もとこ
百歳と子らが卓球文化の日　はく子
紅葉狩ウエストポーチに朱印帳　なつき

二〇一八年一〇月三〇日

幼らの男女対抗宮相撲　さつき
錦秋の茶事にくつろぐ古都の庭　智恵子
媼らは笑ひ上戸や温め酒　なつき

二〇一八年一〇月二九日

推敲す無花果ジャムを煮詰めつつ　やよい
疎に密にもみづり始む杜の樹々　たか子
拝殿にひびく泣き声七五三　三刀

二〇一八年一〇月二八日

到来のカステラも添へ月の膳　菜々
花薄分けゆく里の通学路　愛正
世話係てふ名誉職敬老会　こすもす
秋惜しめとぞ風に舞ふ木つ葉かな　明日香

二〇一八年一〇月二七日

坐禅堂沈黙破り鵙高音　智恵子
活き活きとデパ地下めぐり木の葉髪　菜々
秋思の吾医師の所見は異常無し　せいじ
小田の藁塚チェスの如くに散らばりぬ　ぽんこ

毎日句会みのる選・二〇一八年一一月四日